

# 躍進

新琴似中学校  
学校だより

令和8年度 第4号

令和8年6月26日

## 『校外学習を終えて』

1 学年主任

入学から2か月余りが経ちました。4月当初は、新しい仲間や先生との出会いに緊張した様子も見られましたが、現在では少しずつ中学校生活にも慣れ、自分たちなりに学校生活のリズムをつくりながら日々を過ごしています。

この2か月を振り返ると、生徒たちの成長を様々な場面で感じます。例えば、授業前の準備や教室移動です。入学当初は時間を意識して行動することが難しい場面もありましたが、現在では多くの生徒が次の授業を見通して準備を進めることができるようになってきました。また、授業中も話を聞く姿勢や仲間の発言を大切にしようとする姿が増えています。係活動や当番活動でも、自分の役割に責任をもち、周囲を見ながら行動しようとする生徒が増えてきました。

部活動に所属している生徒たちも、先輩との関わりや日々の活動を通して中学校生活に慣れてきました。入学当初と比べると、挨拶や返事が自然にできるようになり、それぞれの活動に前向きに取り組む姿が見られています。

学年では今年度、「決断」をテーマに教育活動を進めています。私たちは毎日の生活の中で様々な決断を繰り返しています。時間を守るか、面倒なことから逃げずに取り組むか、周囲に流されず自分で考えて行動するか。その積み重ねが自分自身の成長や将来につながっていきます。

今回の校外学習では、「札幌の発展を支えた先人たちはどのような決断をしてきたのか」をテーマに自主研修を行いました。生徒たちは見学や調査活動を通して、札幌のまちづくりに関わった先人たちが、困難な状況の中でも未来を見据えながら決断を重ねてきたことを学びました。

また、校外学習そのものも生徒たちにとって多くの決断が求められる活動でした。班で計画を立てること、時間を見ながら移動すること、予定通りにいかない場面で判断することなど、自分たちで考えながら活動する姿が見られました。教員が近くにいる場面でも仲間と相談しながら行動し、ほとんどの班が昼食場所や帰着集会に余裕をもって到着することができました。

もちろん、まだ課題もあります。自分から一歩踏み出せずに周囲に頼ってしまうことや、仲間任せになってしまうこともあります。しかし、それも成長の途中だからこそ見られる姿です。大切なのは、失敗や反省を次の行動につなげようとすることです。

これからも授業や学校行事、係活動、部活動など様々な場面で、自分で考え、自分で決め、自分で行動する経験を積み重ねていきます。校外学習で学んだ先人たちの姿にも学びながら、一人一人がよりよい決断のできる人へと成長できるよう、学年職員一同支えてまいります。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## 『想定外の試練を成長に変えて』

3学年主任

最高学年に進級してから、早くも2か月半が経ちました。日頃の学校生活において「最上級生」としての自覚をもち、日々の授業や委員会活動、部活動に向き合う姿、後輩を引っ張る頼もしい背中など、日々の様子からも、学年全体のまとまりと温かい雰囲気は日に日に増していることを嬉しく実感しています。そんな日常の中で培った強い絆を胸に、私たちは新琴似中学校初となる「関東方面への修学旅行」へと出発しました。

私たちの学年が義務教育の3年間を通じて見据えてきたのは、社会に必要とされる「人間力」の向上です。1年次の基礎づくり(聴く姿勢)、中だるみと言われる時期を持ち前の素直さで乗り越えた2年次の発展(伝える力)。これらを土台とし、トップダウンからボトムアップ(主体的活動)へと軸足を移してきた集大成の今年度、私たち3学年スタッフの学年目標に『Flowering(花開く)』を掲げました。生徒たちが誰かに言われて動くのではなく、自ら主体的に「考えて行動する力(考動)」を高め、「札幌一の最高学年」として大輪の花を咲かせるサポートをすること。今回の修学旅行は、その真価が試される最大の舞台でした。

誰もが胸を躍らせ、事前の準備を重ねて臨んだ旅路でしたが、2日目に大きな試練が訪れました。台風6号の接近に伴い、生徒たちが心待ちにしていた「鎌倉方面自主研修」の中止を余儀なくされ、行程を大幅に変更せざるを得なくなったのです。長期間かけて班ごとに立てた計画が白紙となり、落胆してもおかしくない状況でした。しかし、ここからの生徒たちの姿こそが、3年間かけて育ててきた「ボトムアップの力」が本物であることを証明してくれました。

そこにあったのは、私たちが三本柱として掲げてきた姿そのものでした。

動じずに代替案を『自主性』をもって受け入れ、今できることを自ら「考動」する姿。先の見通しをもち、互いに声を掛け合う『広い視野』。そして、「結果よりも過程が大切、この仲間と過ごす一瞬を後悔しないものにする」と言わんばかりに、笑顔で目の前の活動に『全力』を尽くす姿。ピンチという逆境の土壌で、生徒たちは見事な主体性の花を咲かせてみせたのです。

「試練の時こそ、日常の真価が問われる」。これまでの学校生活の中で一步一步積み重ねてきた、お互いを思いやる温かさや主体的な姿勢が、この困難の中で最高の強さとなって表れた瞬間でした。その頼もしい姿に、私たち教職員一同、胸が熱くなるほどの深い感動を覚えました。

もちろん、すべてが完璧だったわけではありません。集団行動における細かなルールやマナー、時間への意識など、「これからにつなげなければいけない部分」という次への課題も見つかりました。しかし、私たちの学年では「挑戦しての失敗はチャンス」です。最高学年としての「当たり前の質」をさらに深めるための課題が見つかったことこそ、大きな収穫です。これから控える「受検(受験)」という大きな壁を前に、例え躓いたとしても、自ら納得して再び立ち上がる力は生徒たちにとって最大の武器になります。「進路は団体戦」です。この旅で得た自信と課題を、これからの日常へとしっかりとつなげてまいります。

私たち3学年スタッフ11名は、枠を超えて「チーム全員で190人全員を見守る」というスタンスのもと、これからも生徒一人一人に寄り添い、体温のあるコミュニケーションを大切に重ねてまいります。

最後になりますが、本校初の関東方面への実施、さらには台風による荒天対策の準備や当日の急な行程変更にも関わらず、学校を信頼し、温かく子供たちを送り出してくださった保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

多くの人々に支えられ、修学旅行という大きな山を乗り越えて逞しく成長した生徒たちが、9か月後の「第80回記念卒業証書授与式」、そしてその先の未来において、社会に必要とされる人材として羽ばたけるよう、これからもチーム一丸となって全力で邁進してまいります。今後とも変わらぬご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

